

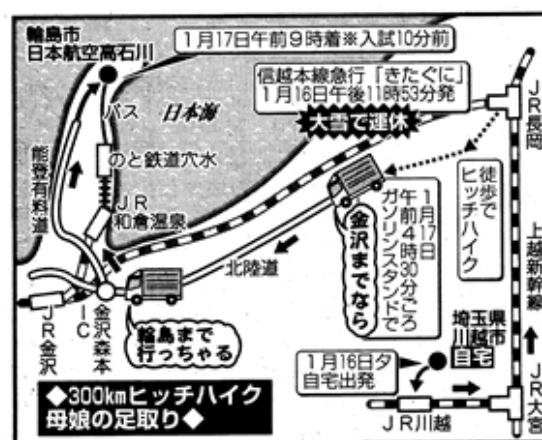
26期生の皆様-14

いよいよ大学の二次試験が始まります。数年前のこと、小さいときから近くの航空自衛隊の航空ショーを見て、将来パイロットになりたいと夢見ていた女の子がいた。その夢は中学生になっても衰えなかった。いろいろ調べてみると能登半島の航空高校があることがわかる。反対する両親を説得して願書を送る。入試の前日に母親と一緒に埼玉からJRで長岡、金沢、輪島に向かった。ところが、大雪のため新潟県で電車がストップ。時は受験日の午前0時過ぎで、子供は「もういいわ」と言うと、お母さんが「なに言ってはりまやばし。一度決めたことは最後までやらなあかん」と叱咤してヒッチハイクを試みる。親切な運転手が乗せてくれたが、それも上越まで。そこから雪と寒風の中を歩くこと二時間半。車は止まってくれない。あるガソリンスタンドにたどり着くとトラックの運転手さんがいた。事情を話すと「わしは大阪に行くさかいに、金沢までやったら乗せたる」（午前4時半）。金沢に着くと「もうこうなったら、輪島まで行っちゃる」と言われ、結局会場まで送ってもらった。学校に到着したのは試験開始5分前。試験は論文で「私の感動したこと」。その子はたった今経験したことを書き、見事合格。けれどその恩人の名前を聞くのを忘れ、人探しをするテレビの番組で再会しお礼を言うことができたということがありました。運転手さんは「わしは特別なことをしたわけでない」と言って取材を断ったそうです。世の中には立派な人がいるのですね。また夢を最後の最後まであきらめないことは大切です。

さて、数回にわたって新約聖書の歴史性について見てきました。なんとか福音書が想像の産物や神話ではないことが理解されたかと思います。今回はイエスの年代を考えることで、福音書にはちゃんとして歴史的データが含まれていることを紹介したいと思います。福音書は出来事を時間の流れに従って語っていくという年代記のような歴史書ではありません。著者はそれぞれ自分の考えに従って構成をしています。しかし、その中には歴史が書かれているとカトリック教会は主張します。

では、まずイエスの誕生の年代について。イエスの誕生についてはマテオとルカの福音書が伝えています。マテオは「イエスはヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムにお生まれになった」（2章、1）と、ルカは「ローマ皇帝アウグストゥスが国勢調査（シリア総督クレニウスのときに行われた最初の調査）を命じたとき」（2章、1~2）と記しています。ヘロデ王（大王）については、以前話したヨセフというユダヤ人の歴史家が詳しく書いていて、紀元前4年に死んだことがわかっています（この年代を認めない人もいます）。それゆえ、イエスの誕生は紀元前4年より前のことで、またヘロデの死に近い頃なので紀元前6年前後と推定されています。

でも西暦という暦はキリストの誕生から始めたものなのに、これは矛盾ではないかと思われるでしょう。西暦という暦を作ったのはローマにいたディオニシウス（556年没）という修道士なのですが、どうもデータを間



違ったらしいのです。

次はイエスが公の宣教を始めた年代。これについてもルカ（福音書の著者の中で唯一直接年代を示すデータを書いている）が洗礼者ヨハネの活動の開始を「ローマ皇帝ティベリウスの第15年目、ポンシオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデ（アンティパス。上述のヘロデ大王の子供）がガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイツリアとテラコニテ地方の領主、ルサニアがアビレネの領主、アンナスとカヤファが大祭司だったとき」（3章、1~2）と示しています。このデータの中で役に立つのは「皇帝ティベリウスの在位15年」というものです。高校世界史の資料集で調べると、ティベリウスは紀元14年から37年に皇帝の座にありました。「それなら紀元後28年のことや」と素早く計算する人があるでしょうが、ことはそう簡単ではないのです。というのは、この皇帝は初代皇帝アウグストゥスの最後の1年8ヶ月、共同統治者になっていたからです。彼が共同統治者になったときから数えると、第15年は紀元27年になります。いずれにしても、27~29年に洗礼者ヨハネの活動が始まり、その後間もなくイエスの公生活が始まったと考えられています。ついでながら、ピラトがユダヤ総督であったのは26~36年、ヘロデの王位は紀元前4年~紀元39年、フィリポも紀元前4年~紀元33か34年まで、など上の年代と矛盾がありません。

もう一つ面白いデータ。イエスとの論争の中でユダヤ人が「この神殿を建てるのに46年もかかった」と言っていることです（ヨハネ、2章、19~20）。当時のエルサレムの神殿はヘロデ大王が紀元前20年（または19年）に壮大な増築工事を始め、それが終わったのは紀元26年（または27年）でした。ですから、イエスの公の宣教は26年（あるいは27年）以降のことであることが確実です。

最後にイエスの死去の年代。イエスは総督ピラトによって裁かれていますから、26~36年の間に起こったはずです。福音書はイエスが金曜日に死去し、その日はユダヤ人の過越し祭りの前日だったと言っています。過越し祭りは年によって曜日が変わりますが、その前日が金曜日に当たるのは、この頃では30年と33年です。イエスの公の宣教が何年続いたのかは、共観福音書（マテオ、マルコ、ルカ）では1年あまりのような印象を受けるのですが、ヨハネの福音書ではイエスの公生活の間に3回の過越し祭りがあったと記されているので、おそらく2年あまりだったのではないかと考えられます。そこで、上で見たように、公生活の始まりが27年か28年頃ならその死去は30年というのが理にかなっている数字です。そういうわけで、確実とは言えませんが、イエスの死は西暦30年のニーサン月14日（今の暦では4月7日）と考えられるそうです。

歴史研究というものは、様々な文書を調べ、そこに書いてあることの真偽を確かめ、事実と認定されたデータを分析して、過去を再現するという地道な作業の上になりたっています。福音書はその作業を可能にするデータも提供すること、つまり歴史的な史料としても使えること、他の歴史書のデータと矛盾しないことなどを了解してくれれば幸いです。

ところで、今年には戦後70周年という年です。先の大戦だけでなく日本の近代史についていろいろと議論されるはず。この問題は日本という国と民族の評価に関わることで非常に大切です。ある主張が本当に歴史的であるかどうかは、一体どういった証拠によってその主張を裏付けているか、です。嘘の証言や史料の改竄をしてまで自己の理論を主張しようとする人もいますが、それにだまされず正しい歴史認識を得るように色んな本で勉強してください（試験が終わってから、ですが）。